

くまびょう

92号

NEWS

くまびょう
NEWS2005年
2月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

第18回 開放型病院連絡会開催迫る

第18回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が、来る2月10日(木)午後7時より、右記の要領で開催されることとなりました。

別途ご案内していますが、紹介症例の呈示と総合討論に引き続き、厚生労働省保険局医療課長 麦谷眞里先生の「医療制度の今後の展開」と題しての特別講演を企画させていただきました。多数のご参加をお待ち申し上げます。看護部門、事務部門のご参加も歓迎いたします。

なお、当日、会場にて新規登録医の申請もできます。登録医証の発行をご希望の先生は写真撮影を実施させていただきます。

第18回 国立病院機構熊本医療センター
開放型病院連絡会

日 時：平成17年2月10日(木) 午後7時～9時

場 所：国立病院機構熊本医療センター
地域医療研修センター

— 内 容 —

1. 紹介症例の呈示
2. 総合討論
3. 特別講演「医療制度の今後の展開」
厚生労働省保険局医療課長 麦谷 眞里 先生

【参加申込先】

国立病院機構熊本医療センター管理課

電話 096-353-6501 内線390

住所 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

開放型病院運営協議会から

平成16年度第2回(通算18回)の国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が平成16年12月15日(水)午後7時30分より、熊本市医師会長の福田運営協議会委員長はじめ熊本市医師会の家村委員、林田委員、田中委員、当院の委員4名と事務局、看護部が出席し地域医療研修センターにて開催されました。

まず院長が医師会長はじめ医師会委員の先生方に日頃のお礼を述べ、病院の建築状況や来年度の臨床研修医のマッチングなどについて現状報告を行いました。続いて福田委員長より挨拶を頂き、議事に移りました。事務局より開放型病院利用状況(登録医数、共同指導実績)、第17回開放型病院連絡会(平成16年9月1日)の参加状況、「くまびょうNEWS」の発行状況について報告がありました。

次いで、第18回開放型病院連絡会の開催について協議され、平成17年2月10日(木)午後7時より当院の地域医療研修センターにて、例年通り、症例呈示、開

放型病院への要望を中心とした総合討論、および特別講演を行うことになりました。

また家村委員より「連絡会当日の駐車場はどうか」とのご指摘を頂きました。当日だけ二の丸公園側から入る臨時駐車場を設ける事にしました。また、開放型病院共同指導の算定方法についても詳しく説明する必要があるとのご指摘を頂き、「共同指導の方法について」説明させて頂くことになりました。

開放型病院となり9年になりますが、初心にかえり病診・病々連携がさらに軌道に乗るように努めなければと感じました。(副院長 池井 聡)



福田委員長のご挨拶



これからお世話になります

く だ か 眼 科

院 長 久 高 宏 徳



平成16年8月に熊本市池田1丁目に新規開業しました。長崎大学卒業後、地元宮崎を中心に医療活動を行っておりましたので、熊本県は住むのも初めてという、いわゆる「落下傘開業」です。まだ開業して4ヶ月ですが、初めての土地での開業、全くの新参者からみた国立病院機構熊本医療センターについて書かせて頂きたいと思えます。

開業地が熊本城の近くなので、引っ越したばかりの頃、二の丸公園を散歩していた時に、たまたま（失礼ですが！）国立病院機構熊本医療センター

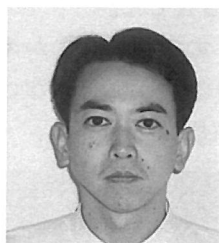
を見つけました。これが初めての出会いで「大きい病院だな…困ったらここに紹介しても良いのかな？しかし敷居が高そうだな…国立だし…」と思っておりました。妻も眼科医（熊大勤務）なので、眼科医には知り合いの先生もおりますが、他科には全くおりません。そんな不安な状況の中での開業でしたが、手島先生から登録医のお話を聞き、早速登録させて頂きました。登録後、すぐに病院の資料や紹介時に必要な書類が送られてきました。病診連携のシステムが分かりやすく、特に紹介する側や患者さんのことに配慮されており、大変感心させられました。システムが立派でも、実際に動かすのは人（スタッフ）であることは言うまでもありませんが、こちらもすぐに安心・信頼できるものと実感させられました。

ホームページで「くまびょう」のバックナンバーを拝見しましても、国病OB先生をはじめ多くの先生より、強く信頼されている病院であるということがよく分ります。研修会や病院内部の情報発信も小まめにされており、院長先生・副院長先生の強力なリーダーシップの下、国立病院機構熊本医療センター全体の病診連携に対する積極的姿勢が伝わってきます。私の診療圏では国立病院機構熊本医療センターを知らない人はおりませんし、幸い地理的に近いこともあり、紹介時には患者さんへの受け入れもスムーズにできております。

御迷惑をおかけすることも多いと思いますが、これからもよろしく御願ひ致します。

パネリストの御発言 「国立病院機構熊本医療センター開放型病院の利用について」その5

第17回開放型病院連絡会のパネルディスカッションでのパネリストの先生方の発表内容の要旨と病院からのご返事をお1人ずつ5回にわけて掲載します。今後の改善に役立てたいと思えます。



かなもと歯科医院

金本 和久 先生

知り合いの歯科医師からの話として、「国立病院機構熊本医療センターに通院中の患者様の抜歯をして良いか電話で問い合わせた際に、頭ごなしにダメだと言われた。ダメな理由の説明も無く、患者様への説明に困った」「紹介先の歯科口腔外科の診療はスムーズだったが、他の診療科の受診も必要となり、廻された診療科で待

たされて1日かかった」との事例をあげられ、病院の対応の改善を要望されました。

お答え：歯科の先生から抜歯についての問い合わせは、電話では手元に診療録（カルテ）がなく、患者および投薬内容の確認が出来ず、また守秘義務等の問題等がありますので、出来ましたら文書での問い合わせをお願いします。「頭ごなし」的な対応があったとの事で、非常に申し訳ありません。これからも接遇教育に努めます。最近当院では紹介患者優先診療を開始しました。診療情報提供書を持参された患者様は優先的に診療を開始しますが、他の診療科の受診が必要になった場合でも、同様に優先して診療を行う様に致しました。ご指摘頂いたような事例は今後解消されるものと思えます。

（副院長 池井 聡）

第10回 国立病院機構熊本医療センター医学学会開催さる

1月15日(土曜)、16日(日曜)の両日にわたって、第10回国立病院機構熊本医療センター医学学会が、地域医療研修センターにて開催されました。本学会は、当院スタッフが、日ごろの臨床研究の成果を発表し、当院の医療水準の向上を目指すとともに、お互いの理解を深めることを目的に始められましたが、早いもので今回で10回目を迎えました。

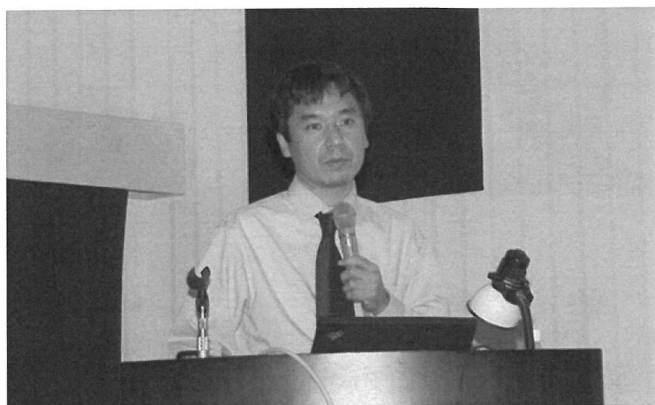
今回は、熊本市消防局からの3題を含めて一般演題63題が報告され活発な討論が行われました。また、特別講演には、我が国の医療管理学、医療経済学の権威の産業医科大学公衆衛生学教授松田晋哉先生に、“DPCを理解しよう”というタイトルで、非常にわかりやすい、感銘深いご講演をいただきました。

また、本学会は、開業の先生方のご参加もいただいております。今回も、岡部正人先生(水俣市、岡部病院)、木村忠司先生(清水まんごくクリニック)、川原文次先生(川原胃腸科内科)、木山茂先生(本渡市、木山・中村クリニック)に座長をお願いし、医学学会をさらに有意義なものにさせていただきました。

例年、前年度の当学会で発表した演題で論文となる発表の中から優秀なものを表彰していますが、今回、

優秀賞1題：血液内科医師 日高道弘 “HLA不一致ドナーからの造血幹細胞移植”、奨励賞3題：看護師 福岡理恵 “上部内視鏡検査前処置における咽頭麻酔時間短縮の効果”、臨床検査技師 川崎達也 “院内感染症サーベイランス-NC調査17年間の成績と分析-”、熊本市消防局 金子忠明 “熊本市で発生した病院外心肺停止症例の検証”が、宮崎院長より表彰されました。次年度もさらに立派な医学学会となるよう、全スタッフの更なる研鑽努力が望まれます。

(副院長兼臨床研究部長 河野 文夫)



特別講演中の松田先生

平成16年度 第2回

熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

去る1月7日(金)、熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が当院応接室で開催されました。市歯科医師会から古賀会長、藤波副会長、矢毛石専務理事、田中医療管理理事、尾上医療管理委員会会長、当院から宮崎院長、池井副院長、河野副院長、高橋救命救急センター部長、児玉歯科口腔外科医長が出席しました。

宮崎院長、古賀会長の挨拶の後、議事に入りました。まず児玉より病診連携の活発化の指標となる歯科口腔外科への平均紹介率について、前年の26.2%に対し、16年度は29.5%と上昇していることを報告し、さらなるご協力を歯科医師会にお願いしました。

次に、高橋部長より最近7ヶ月間の救急症例について、歯科口腔外科に59名、歯科医院から救急部へは1

名であったとの報告がありました。

連絡事項として、本年の救急蘇生講座は11月10日(木)に開催すること、18年度よりの歯科医臨床研修医の必須化に際して、本院はその指定を予定していること、障害者歯科医療の現状等が伝えられました。

その後、池井副院長から2月10日(木)に開催される開放型病院連絡会では紹介症例の呈示、総合討論、厚生労働省保険局医療課長 麦谷真里先生による特別講演を予定しているとの報告があり、総合討論での歯科医師会会員からの参加をお願いしました。

最後に、この連絡会での活発なる意見交換で開放型病院のさらなる充実を目指し、密なる病診連携をすすめていくことで閉会しました。

(歯科・口腔外科医長 児玉 圀昭)

**2005年
診療科紹介(17)
眼 科**



手島 倫子
小児眼科、白内障、
眼科一般
日本眼科学会専門医



上野 重文
眼科一般



米村 昌宏
緑内障、白内障、
眼科一般
日本眼科学会専門医

診療実績

平成16年1月～12月の外来患者数は8,807人、新患者数865人、新入院患者数234人、平均在院日数は4.7日でした。クリティカルパスの使用により、より効率的な入院治療が行われ在院日数も年々短くなっています。

研究実績

平成12年より政策医療ネットワークを構築し、国立病院機構東京医療センターと協力し、眼科診療におけるクリティカルパスについて「臨床眼科」に掲載発表しました。現在は加齢黄斑変性と緑内障の遺伝子について共同研究をしています。来年度はEBMに基づいたドライアイの臨床研究を計画し準備中です。

特 色

眼科は現在医師3名で診療しています。外来は月曜～金曜の毎日ですが、火曜日と木曜日は手術日のため、担当医が診察にあたり、医師の指名は出来ません。診察は小児から高齢者に至る、多岐にわたる眼疾患に対応出来ます。また、24時間体制でオンコールシステムをとり、救急医療にあたっています。

手術では、平成13年10月から網膜硝子体手術が出来るようになり、症例数も少しずつ増加しています(表1)。

入院では、入院患者の95%にクリティカルパスを使用して効率的な医療を行い、患者様に喜ばれています。

総合病院の眼科の特色を生かして、手術を必要としない、全身疾患に合併した眼疾患の入院治療にも取り組んでいます。これからも良質の医療を目指して努力して参ります。よろしくお願い致します。

表1 手術症例数

	網膜硝子体	白内障	外眼ほか	計(眼)
平成13年	7	248	27	282
平成14年	79	416	32	527
平成15年	63	431	25	519

表2 眼科患者数

	外来新患者数	新入院患者数(名)
平成13年	1,149	243
平成14年	1,285	399
平成15年	1,095	335

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構 熊本医療センター ホームページアドレス

http://www.hosp.go.jp/~knh/

最近のトピックス

COPD (慢性閉塞性肺疾患)
~Neglected diseaseからCommon diseaseへ~

総合医療センター
呼吸器科医長

森松 嘉孝

COPDは現在、呼吸器科の分野で非常に注目されている疾患群で、その定義は「有毒な粒子やガスの吸入によって生じた肺の炎症反応に基づく進行性の気流制限を呈する疾患」です。分かりやすく言えば、タバコによって肺がスカスカになって、いずれは酸素のお世話になる病気です。その代表は肺気腫ですが、これまで日本では22万人いると言われていた肺気腫が、実は520万人もの患者がいることが分かっています。このため肺気腫はNeglected disease (見過ごされてきた病気) と言われています。

肺気腫の特徴は、症状発現が極めて遅いことと、禁

煙したときから、40年間増え続ける病気であることです。先進国のなかで唯一禁煙が進んでいない日本では、今後40年以上にわたって患者数が増加の一途を辿ることになります。

喫煙者全てが肺気腫となるわけではなく約15%に発症するのですが、現時点ではどのような人に起こりうるのか、まだはっきりわかっていません。禁煙すれば肺気腫の発症を遅らせることができると言われており、これはFischerの曲線という有名なグラフに基づくものです(図2)。このため、禁煙が第一の治療法とされていますが、実際外来で禁煙が治療と説明しても、腑に落ちない顔をするか、ムツとして帰る場合がほとんどです。

これまで肺気腫の薬剤といえば抗コリン剤(商品名テルシガン)が第一選択薬でしたが、これが効いたという人はあまり多くありませんでした。また、1日4回ほど吸入しなくてはならなかったのですが、間もなく1日1回吸入の薬剤が市販され、その効果が待たれます。

いずれにしても、喫煙によって溶けてしまった肺は元には戻りません。喫煙は、副流煙や肺気腫による医療費への負担など、自己責任ではすまされないため、予防医学も極めて重要と考えます。

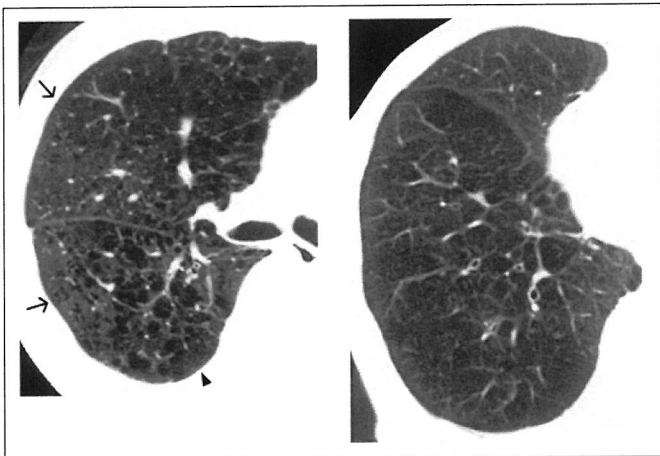


図1：小葉中心性肺気腫と凡小葉性肺気腫のHRCT像

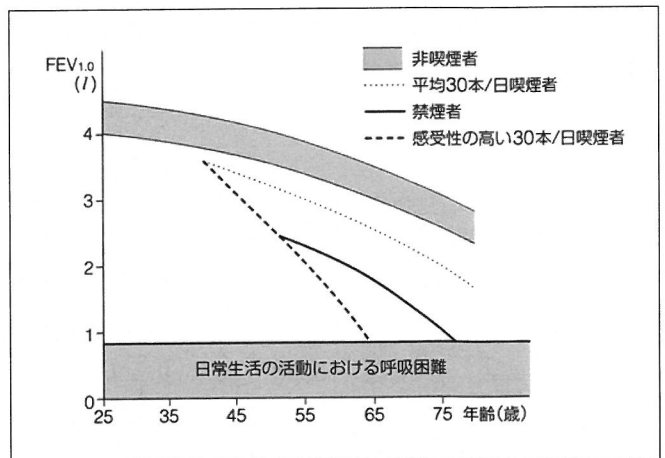


図2：Fischerの曲線

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで



共同指導のご案内



共同指導とは、登録医の先生が来院されて、紹介の患者様を当院主治医と共同で指導を行うことです。診療報酬としては開放型病院共同指導料（350点）を算定できます。共同指導の流れは以下のとおりです。

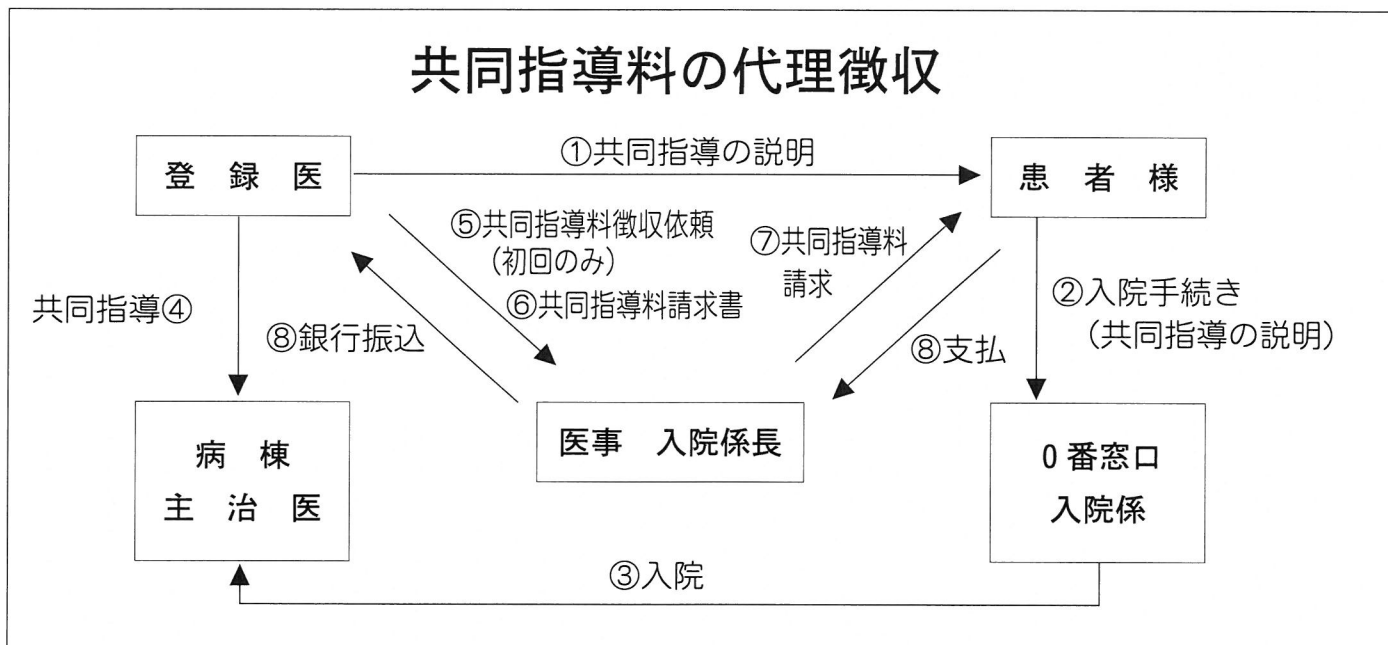
- 1) 来院されましたら、医事0番窓口（土曜、日・祭日、時間外は玄関入って右側の時間外受付）にて、来院受付簿にお名前、来院時間を記入の上、名札を受け取りご着用下さい。
- 2) 本館2階の医師控室前の登録医用ロッカーをご利用頂き、白衣のご着用をお願いします。控室としては本館2階「医師控室」をご利用頂けます。
- 3) 紹介患者様の入院される病棟へお行きになり、看護師に患者様の名前を告げ、診療録の閲覧、当該患者様の共同指導を行って頂きます。
- 4) 指導内容等を診療録に記入し、登録医の指示棒（黄色）をはさんで下さい。また、「共同指導実施伝票」の起票をお願いします。記載された伝票は黄色のレターボックスへお入れ下さい。
- 5) お帰りの際は、医事0番窓口（時間外は時間外受付）で、帰院時刻等必要事項を記入し、名札をお返し下さい。駐車券は無料の手続を致しますので、0番窓口（時間外は時間外受付）へお申し付け下さい。

◎共同指導料の代理徴収について

共同指導料の患者自己負担分の代理徴収を当院へ依頼される場合は、次のような取扱でお受け致します。

- 1) 共同指導料の患者様負担分については、患者様が入院される前に紹介主治医よりご説明をお願いします。当院からも入院時にご説明いたします。
- 2) 共同指導料は、口座振り込みいたしますので、「共同指導料徴収依頼」に記入の上（変更ない場合は1回のみ）、医事0番窓口（時間外は時間外受付）へお届け下さい。
- 3) 共同指導を実施された場合、「共同指導実施票」に記載し、紹介主治医控えを月末までにお持ち帰り下さい。また、毎月末日（退院の場合はその前日）までに、「共同指導料請求書」を作成の上、医事0番窓口（時間外は時間外受付）へお届け下さい。
なお、上記「共同指導料徴収依頼」及び「共同指導実施票」、「共同指導料請求書」は各病棟スタッフステーションの開放型病院専用ボックス（黄色のボックス）に準備してあります。
- 4) 入院中に支払いがない場合は、退院後に紹介主治医（登録医）より患者様へご請求願います。
※その他ご不明な点等ございましたら医事0番窓口へご照会下さい。

（経営企画室長 木村 喜美生）



■ 研修のご案内 ■

第53回 特別講演 (無料)

[日本医師会生涯教育講座 5 単位認定]

日時▶平成17年2月2日(水) 19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 熊本大学大学院医学薬学研究部循環器病態学教授 小川 久雄

「循環器病診療のパラダイムシフト」

国立循環器病センター病院長 友池 仁暢

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第11回 熊本がんフォーラム (無料)

日時▶平成17年2月15日(火) 18:30~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

司会 前公立玉名中央病院長 木山 程荘

「肺がんの診断と治療」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器科医長 森松 嘉孝

その他、一般演題を数題準備しています。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 副院長 池井 聡 TEL 096-353-6501 (代表) FAX 096-325-2519

第42回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座 3 単位認定]

日時▶平成17年2月17日(木) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 糖尿病クリティカルパスを用いた血糖コントロール、糖尿病教育、合併症評価の1例

国立病院機構熊本医療センター 市原ゆかり、青木由香、大磯洋、石井規夫、高橋毅、東輝一朗、小堀祥三
なお、興味のある症例・ご疑問・ご質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線796

第73回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座 3 単位認定]

日時▶平成17年2月21日(月) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例呈示「セラチア敗血症に合併した急速進行性腎炎の1例」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター腎臓内科 大田黒智子

4. ミニレクチャー「国際医療協力：中国(広西チワン族自治区)における糖尿病の実態」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科部長 東 輝一朗

日頃、ご疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501 (代表) FAX 096-325-2519

第67回 救急症例検討会 (無料)

日時▶平成17年2月23日(水) 18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「呼吸困難 循環器疾患」

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第189回 初期治療講座 (会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶平成17年2月26日(土) 15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「意識障害」

座長 熊本市医師会 櫻間 信義

1. 救急医療

国立病院機構熊本医療センター救命救急センター部長 高橋 毅

2. 代謝性疾患

国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科部長 東 輝一朗

3. 脳神経外科的疾患

国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 大塚 忠弘

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

平成17年 研修日程表 2月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

2月	研修ホール	会議室	ほか
1日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
2日(水)	19:00~21:00 第53回 特別講演 座長 「循環器病診療のパラダイムシフト」 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 熊本大学大学院医学薬学研究部 循環器病態学教授 小川 久雄 国立循環器病センター病院長 友池 仁暢	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
3日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
4日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手臨 8:00 皮膚科症例検討会 手臨 17~18 救急部カンファレンス C
5日(土)	14:00~16:00 第179回 滅菌消毒法講座《会員制》 「最近の感染症について -SARS、インフルエンザ-」 熊本大学大学院医学薬学研究部感染防御学教授 原田 信志		
7日(月)		17:00~18:00 病理細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
8日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
9日(水)	18:30~20:00 病薬連携研修会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
10日(木)	19:00~21:00 第18回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
14日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
15日(火)	18:30~20:30 第11回 熊本がんフォーラム 「肺がんの診断と治療」 司会 前公立玉名中央病院長 木山 程荘 国立病院機構熊本医療センター呼吸器科医長 森松 嘉孝	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
16日(水)	13:00~18:00 第18回 医療マネジメント学会主催クリティカルパス実践セミナー in 熊本〔1日目〕 18:00~19:30 第36回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開)		17:00 消化器疾患カンファレンス C
17日(木)	8:50~14:30 第18回 医療マネジメント学会主催クリティカルパス実践セミナー in 熊本〔2日目〕 19:30~21:30 第39回 有病者歯科医療講演会 座長 熊本県歯科医師会学術委員会理事 伊藤 明彦 「顎口腔領域と脳外科の疾患について」 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 大塚 忠弘	19:00~20:30 第42回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
18日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手臨 8:00 皮膚科症例検討会 手臨 17~18 救急部カンファレンス C
20日(日)	8:00~16:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 <総会・学会>		
21日(月)	19:00~20:30 第73回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	17:00~18:00 病理細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
22日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
23日(水)	18:30~20:00 第67回 救急症例検討会 「呼吸困難 循環器疾患」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
24日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
25日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手臨 8:00 皮膚科症例検討会 手臨 17~18 救急部カンファレンス C
26日(土)	15:00~18:00 第189回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本市医師会 櫻間 信義 「意識障害」 1. 救急医療 国立病院機構熊本医療センター救命救急センター部長 高橋 毅 2. 代謝性疾患 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 3. 脳神経外科の疾患 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 大塚 忠弘		
28日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)